

## 共通開講科目(アオッサ) ふくいを知る・見る・考えるⅡ ～イノベーション編～／福井大学

科目名/提供大学名	ふくいを知る・見る・考えるⅡ ～イノベーション編～／福井大学
科目名(英文)	Knowing, Observing & Reflection on Fukui Ⅱ ~innovation~
対象学年	原則として、全学年。(但し当該年度卒業予定者は除く)
開講時期	後期:集中講義(2/20~2/23①②③④限目)予定
単位数	2単位
科目区分	選択(地域コア科目群:「ものづくり・産業振興・技術経営分野」)
授業形態・開講形態	講義
担当教員名	吉田 史朗, 他
オフィスアワー	講義の前後に質問等を受け付ける
教員メールアドレス	吉田 史朗(shiryosh@u-fukui.ac.jp)
概要	ものづくりを中心にした福井の産業は、小さいけれどきらりと光る技術や、ビジネスモデルのイノベーションに成功している企業が多くある。それら企業の成功や紆余曲折や、独特の企業文化を紹介し、そこから福井の企業の底力を学ぶ。
学習・教育目標との関連	各大学の目標との関連は、科目の提供大学側では書けないと思われます。
授業目標・目的	福井には、これまでいろいろな分野で世界をリードするイノベーションを生んできた企業が数多くある。それを生み出してきたこれら企業の独特の文化を知ることにより、仕事への取り組み姿勢・仕事の本質を学ぶことと同時に、それを可能にした地域の風土も理解し、全体として地域思考力が身に付くことを期待する。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input checked="" type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input checked="" type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input type="checkbox"/> 選択能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふくいの特色や強みを理解して、自らの学修に役立てること。</li> <li>・多様性、グローバル化の重要性を理解して自分の将来設計に資すること。</li> <li>・イノベーションを生んだ背景を学び、主体的に課題を発見し解を見いだす能力を身につけること。</li> <li>・普段会えない経営者との直接対話を通して学び、多様な人々との出会いを今後活かすこと。</li> </ul>
授業計画・授業内容	(授業内容について、変更の可能性がある。) 第1回 世界に発信した福井のイノベーションー福井の仕事、企業、ビジネスモデルを見る 地域創生教育研究センター 第2回 福井の利点を生かした起業という選択 さくら 第3回 近海の漁獲量を支える人工漁礁、老舗の繊維メーカーが乗り出した漁業サポート サカイオーベックス 第4回 精密な工作機械メーカーが提供するマザーマシンが世界を創る 松浦機械製作所 第5回 世界中からメールで受注、一人ひとりのデザインを可能にしたビスコテックス セーレン 第6回 髪を科学することで、プロの美容師の信頼にこたえる化粧品を提供し続ける 日華化学デミ化粧品 第7回 企業訪問① セーレン研究所&工場見学 第8回 企業訪問② 日華化学 NICCAイノベーションセンター見学 第9回 県外から福井の魅力に惹かれ拠点を鯖江に移した若者集団をリードする TSUGI 第10回 ジオテキスタイルを体現し、防災の領域に繊維を応用した 前田工織 第11回 高級ブランドにつきものの偽者対策を繊維で 日本ダム 第12回 福井のサービス業、製造業の品質を支えて50年 QCサークル活動のスコ技 第13回 福井の産業を支える知恵袋、オープンイノベーションをリードする 福井県工業技術センター 第14回 人工血管へのチャレンジー下町ケットのモデルになった 福井経編興業 第15回 スマートフォンはこの会社の技術がないと開発できないとまで言われる 清川メッキ工業
授業方法	オムニバス形式の講義とする。講義を担当するのは、県内企業の経営者や技術者の皆さん。担当者によって様々な講義スタイルがあるが、主としてパワーポイント・画像等を用いて講義を行う。
キーワード	イノベーション、人材育成、ものづくり・産業振興・技術経営、持続可能な社会・環境づくり
教科書	資料を印刷し、配布する。必要に応じ、関連図書を紹介する。
参考書	
評価方法・評価基準	各回の小レポートごとの評価を統合し成績を判定する。 なお、1/3以上欠席した学生は不可とする。
関連科目	
履修の要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻厳禁</li> <li>・2日目に学外での活動があるため、必ず学生教育研究災害傷害保険(学研災)及び学研災付帯賠償責任保険(学研賠)に加入していること。</li> </ul>
必要な事前・事後学習	福井県が発行する「『実は福井』の技」をベースに講義を進める。 あらかじめ、テーマに示された内容について、下調べしておく。また講義で示された事例について、まとめるとともに、不明な点を調べ、理解を深める。
その他・注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の教員ではない経営者などが授業を担当するので、受講態度や講師と接するときの言葉遣いなどには注意したい。</li> <li>・上記授業内容は変更になる可能性がある。</li> </ul>